

整理番号	ラップ ロッカー スプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	ラップ ロッカー スプレー(水性) 480ML×24/CS
製品コード	4623
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	平沢 肇
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	自動車の下回りの防錆、保護、黒色
作成日	2017年4月7日
改正日	2018年7月17日
整理番号	4623-01

2. 危険有害性の要約

GHS分類

エアゾール	区分 1
引火性液体	区分 3
急性毒性（経口）	区分 5
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
発がん性	区分 2
生殖毒性	区分 1 (1 A 及び 1 B)
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 2
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分 2
水生環境有害性（急性）	区分 3
水生環境有害性（慢性）	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール
 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
 引火性液体および蒸気
 飲み込むと有害のおそれ

整理番号	ラズロッカースプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

皮膚刺激
 重篤な眼の損傷
 発がんのおそれの疑い
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 呼吸器系、中枢神経系の障害のおそれ
 呼吸刺激を起こすおそれ、又は眠気やめまいのおそれ
 長期にわたる、または反復暴露による中枢神経、肺の障害のおそれ
 水生生物に有害
 長期的影響により水生生物に有害

3. 組成、成分情報

化学物質 ・混合物の区別
 ・混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
ジメチルエーテル	非公開	非公開	非公開
変性樹脂	非公開	非公開	非公開
結晶質シリカ	0.1~5.0	7631-86-9	(1)-548
プロピルアルコール	0.1~5.0	71-23-8	(2)-207
トリエチルアミン	1.0未満	121-44-8	(2)-141
カーボンブラック	0.1~1.0	1333-86-4	(5)-5222
スチレン	0.3以下	100-42-5	(3)-4
コバルト及びその化合物	0.2以下	61789-51-3	(8)-630

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
130	カーボンブラック	0.1~1.0%
172	コバルト及びその化合物	0.2%以下
323	スチレン	0.3%以下
494	プロピルアルコール	0.1~5.0%
165の2	結晶質シリカ	0.1~5.0%

労働安全衛生法

表示物質：法第57条の1、施行令18条の1別表第9 名称等を表示すべき有害物質

制令番号	物質名
130	カーボンブラック
172	コバルト及びその化合物
323	スチレン
494	プロピルアルコール
165の2	結晶質シリカ

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させる。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。

整理番号	スプレー（水性） 480ML × 24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・衣服等に付着した場合は、脱いで皮膚の付着した部分を十分に洗い流す。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗淨する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗淨を続ける。
- ・洗淨後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗淨を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗淨する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
- ・当該製品は着火後爆発の危険性があるため、直ちに避難する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- ・容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとる。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

整理番号	ラジロッカースプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- ・作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で困って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・アルカリ性の製品なので、必要があれば酸(希塩酸、希硫酸等)で中和する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- ・火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- ・裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
- ・熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・容器を接地(アース)をすること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等)を使用すること。
- ・規定時間以上噴射しないこと
- ・火気を使用している室内で使用しないこと
- ・漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
- ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・人体に向かって噴射しないこと、また噴射気体を直接吸入しないこと
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと
- ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざけること。
- ・酸と一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・特になし

整理番号	ラズロッカースプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
 - ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。
 - ・屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気の発生が多い場所には局所排気装置を設ける。
- 記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名/化学名	管理濃度	許容濃度
ジメチルエーテル	-	-
変性樹脂	-	-
結晶質シリカ	-	ACGIH (TLV-TWA) 10mg/m ³
プロピルアルコール	-	日本産業衛生学会 (2005年版) 未設定 ACGIH (2005年版) TLV-TWA 200ppm (skin) TLV-STEL 400ppm (skin)
トリエチルアミン	-	ACGIH (TLV-TWA) 3ppm
カーボンブラック	2.9mg/m ³	日本産業衛生学会 (2008年版) 第2種粉じん 吸入性粉じん 1mg/m ³ 総粉じん 4mg/m ³ ACGIH (2008年版) TLV-TWA 3.5 mg/m ³
スチレン	20ppm	ACGIH (TLV-TWA) 20ppm
コバルト及びその化合物	-	-

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用す

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡 (普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 黒色液体 (原液)
臭い	: 特異臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 8.8 (原液、25℃)
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: 42℃ (セタ密閉式) (原液)
自然発火温度 (発火点)	: データなし
燃焼性 (固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: 下限: 3.4Vol% , 上限: 27.0Vol% (ジメチルエーテル)
蒸気圧	: 0.56MPa (25℃)
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.20 (原液、25℃)
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度 (粘性率)	: データなし
その他のデータ	: アルコール系可溶剤に可溶

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

整理番号	ラズロッカスプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11. 08

避けるべき条件

- ・加熱・熱源・裸火
- ・強酸化剤との接触を避ける。
- ・高温への暴露は避けること。

混触危険性物質

- ・強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)
- ・容器が腐食するおそれがあるので、酸及びアルカリとの接触を避けること。

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

1 1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ ジメチルエーテル

《急性毒性》

吸入(ガス)：ラットを用いた吸入試験(4時間ばく露)における、LC50：164,000ppm(DFGOT (vol.1, 1991), PATTY(5th, 2001))のデータを採用し区分外とした。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

ガイダンス値を超える用量で実施されたウサギの吸入試験(45分)およびイヌの吸入試験(5分)において麻酔作用、血圧、心拍数の低下の記載(DFGOT (vol.1, 1991))、また、ヒトにおいて意識喪失、視野喪失、痛覚喪失などの神経系の影響記載(DFGOT (vol.1, 1991))があることから区分3(麻酔作用)とした。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ラットの14日間の吸入試験(1日6時間、週5日間)において10000ppmの用量で体重の減少以外に顕著な影響は認められずNOAELは<10000ppmとしている。また、ラットの13週間吸入試験(1日6時間、週5日間)において、20000ppmの用量でSGOTの増加および肝重量の減少およびSGPTの増加が認められたが、2000ppmの用量では認められていない。ハムスターの13週間吸入試験(1日6時間、週5日間)において、20000ppmの用量で白血球数の減少の所見が得られた(DFGOT (vol.1, 1991))が、10000ppmの用量では有意ではなくNOAELを5000ppmとしている。これらの用量は、いずれもガイダンス値区分2の範囲の上限を超えていることから区分外とした。

・ プロピルアルコール

《急性毒性》

経口：ラットLD50値：1900mg/kg、1870mg/kg、5400mg/kg、6500mg/kg(ACGIH, 2004)ほか)に基づき、計算を適用した。計算値は2695mg/kgであったことから、区分5とした。

経皮：ウサギLD50値：6700mg/kg(PATTY 4th, 1994, ACGIH, 2004)、4060mg/kg(ACGIH, 2004)、4000mg/kg(PATTY 4th, 1994)および4050mg/kg(EHC 102, 1990)に基づき、計算を適用した。計算値は4031mg/kgであったことから、区分5とした。

吸入(ガス)：GHSの定義による液体である。

吸入(蒸気)：PATTY (4th, 1994)に20000ppmの1時間暴露(4時間換算値：24.531mg/L)でラットに死亡が認められなかったとの記述、EHC 102 (1990)およびPATTY (4th, 1994)に4000ppm(9.84mg/L)の4時間暴露でラット6例中2例が死亡したとの記述があるが、LC50値は示されていないことから、データ不足のため分類できないとした。

吸入(粉じん、ミスト)：データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

PATTY (4th, 1994)のウサギの皮膚を極めて軽度に刺激したとの記述から、区分3の可能性はあるが、EHC 102 (1990)のヒトの皮膚に適用した試験において12例中9例でerythemaが認められたとの記述から、区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ACGIH (2004)、PATTY (4th, 1994)のウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁および潰瘍形成が認められたとの記述から、区分2Aとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器：データなし

皮膚：EHC 102 (1990)にパッチテストでアレルギー性反応が認められた1症例の記述があるが、他にデータはなく、データ不足のため分類できないとした。

《生殖細胞変異原性》

in vitro試験のデータしかないため分類できない。

整理番号	ラズロッカースプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11. 08

《発がん性》

ACGIH(2004)でA3に分類されていることから、区分2とした。

《生殖毒性》

ACGIH (2004)およびPATTY (4th, 1994)の妊娠中のラットに吸入暴露した試験において母動物に一般毒性が認められる用量で奇形の増加が認められたとの記述、ならびにACGIH (2004)、PATTY (4th, 1994)、EHC 102 (1990)の雌雄ラットを用いた吸入暴露試験において一般毒性が認められる用量で雄の生殖能低下および子の奇形(crooked tail)増加が認められたとの記述から、区分2とした。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ACGIH (2004)、EHC 102 (1990)、PATTY (4th, 1994)のラット、マウスまたはウサギを用いた吸入暴露または経口投与試験において麻酔作用が認められたとの記述、ならびにEHC 102 (1990)のマウスを用いた吸入暴露試験において気道刺激性を示唆する呼吸数の減少が認められたとの記述から、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

データ不足のため分類できない。

《吸引力呼吸器有害性》

3以上13を超えない炭素原子で構成された一級のノルマルアルコールであることから、区分2とした。

・ トリエチルアミン

《急性毒性》

経口:ラットLD50値:460mg/kg(ACGIH 7th, 2001、DFGOT vol.13, 1999、PATTY 4th, 1994)、560mg/kg、730mg/kgおよび1029mg/kg(DFGOT vol.13, 1999)に基づき、計算を適用した。計算値は471.8mg/kgであったことから、区分4とした。

経皮:ウサギLD50値:420mg/kg(ACGIH 7th, 2001)、415mg/kg、578mg/kg(DFGOT vol.13, 1999)および416mg/kg(PATTY 4th, 1994)に基づき、区分3とした。

吸入(ガス):GHSの定義による液体である。

吸入(蒸気):ラットLC50(4時間)値:1250ppm(換算値5.163mg/L)および2600ppm(換算値:10.74mg/L)(DFGOT vol.13, 1999)に基づき、小さい方の値を採用した。1250ppmは蒸気圧からミストをほとんど含まない蒸気と判断でき、ppm濃度基準値で分類し、区分3とした。

吸入(粉じん、ミスト):データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

ACGIH (7th, 2001)およびDFGOT (vol.13, 1999)のウサギを用いた皮膚刺激性試験において腐食性が認められたとの記述から、区分1A-1Cとした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ACGIH (7th, 2001)およびDFGOT (vol.13, 1999)のウサギを用いた眼刺激性試験において腐食性が認められたとの記述から、区分1とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器:データなし

皮膚:DFGOT (vol.13, 1999)のマウスを用いたear-swelling testにおいて感作性は認められなかったとの記述から、区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

データ不足のため分類できない。

《発がん性》

ACGIH (7th, 2001)でA4に分類されていることから、区分外とした。

《生殖毒性》

データ不足のため、分類できない

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ACGIH (7th, 2001)のヒト暴露例で中枢神経系に影響がみられるとの記述、ACGIH (7th, 2001)ほかおよびIRIS (2005)のヒト暴露例で視覚障害がみられるとの記述、ならびにPATTY(4th, 1994)のヒトで脳波の変化がみられるとの記述から、区分1(中枢神経系)とした。また、ACGIH (7th, 2001)のマウスを用いた吸入暴露試験(暴露時間不明)において呼吸数の低下が156~180ppmの低濃度で認められているとの記述および腐食性であることから、区分1(呼吸器)とし

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

ACGIH (7th, 2001)およびDFGOT (vol.13, 1999)のラットを用いた反復経口投与試験で中枢神経系への影響が区分1のガイダンス値範囲内で認められたとの記述、およびACGIH (7th, 2001)、DFGOT (vol.13, 1999)およびIRIS (Access on Sep 2005)のヒト職業暴露例で視覚障害がみられるとの記述から、区分1(中枢神経系)とした。

整理番号	ラブロッカスプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11. 08

《吸引性呼吸器有害性》
データなし

・ カーボンブラック

《急性毒性》

経口:ラットLD50 15400 mg/kg (RTECS (2004))に基づく。

経皮:ウサギで > 3 gm/kg (RTECS (2004))というデータがあるが、LD50値として特定できない。

吸入(ガス):GHS定義で固体。

吸入(蒸気):データなし

吸入(粉じん、ミスト):データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

データ不足。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

データ不足。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性: データなし

《生殖細胞変異原性》

体細胞in vivo遺伝毒性試験(ラット肺胞細胞のDNA付加体形成試験およびラット肺胞細胞hprt mutation試験)でそれぞれ陽性結果(DFGOTvol.18(2002))があるが、in vitro変異原性試験にて明確に陽性が出ているデータはみあたらない。

《発がん性》

IARC分類2Bおよび日本産業衛生学会第2群Bに基づく。

《生殖毒性》

データなし

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

データなし

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

ヒトのじん肺症(DFGOTvol.18 (2002))、及びラット吸入試験でガイダンス値区分1の範囲で肺への影響(上皮の過形成、化生、肺線維症、肺胞細胞の増殖等)(DFGOTvol.18 (2002))に基づき区分1に分類される。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし

・ スチレン

《急性毒性》

経口:ラットの経口投与試験のLD50 5,000 mg/kg(CERI・NITE有害性評価書No.52 (2004))に基づき、区分5とした。

経皮:データなし

吸入(ガス):GHSの定義による液体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。

吸入(蒸気):ラット吸入暴露試験(蒸気)LC50 11.7mg/L(4時間)、11.9mg/L(4時間)(CERI・NITE有害性評価書No.52(2004))に基づき、計算式を適用し、LC50(4時間換算値)の2770 ppmが得られた。飽和蒸気圧0.67kPaにおける飽和蒸気圧濃度6600 ppmの90%よりも低い濃度なので「ミストがほとんど混在しない蒸気」として、ppm濃度基準値で区分4とした。

吸入(粉じん、ミスト):データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、「中等度の刺激性を有する」としていることから区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

CERI・NITE有害性評価書 No.52(2004)の、ヒト疫学事例及びウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「中等度の刺激(7日間持続)」から、区分2Aとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性: データなし

《生殖細胞変異原性》

ACGIH (7th, 2001)、CERI・NITE有害性評価書 No.52 (2004)の記述から、生殖細胞in vivo経世代変異原性/変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験、小核試験)で陽性、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なし(マウスの脳、肝臓、腎臓、肺、精巣の細胞を用いたDNA一本鎖切断試験(No.36)での陽性結果に関しては生殖細胞(germ cell)に限定して調べたかが明確でないため分類には使用しない(専門家判断済))であることから区分2とした。

《発がん性》

IARC(2002)で2Bに分類されていることから、区分2とした。

整理番号	ラブロッカスプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11. 08

《生殖毒性》

CERI・NITE有害性評価書 No.52 (2004)の記述から、ラットの三世代繁殖試験において、F0に影響のない用量で、F1、F2に新生児期生存率低下がみられていること、さらに、ラットの発生毒性試験及び授乳期投与試験で母毒性のみられない用量で児動物に大脳セロトニンの減少、立ち直り反射及び聴覚反射の遅延など多くの行動的検査に異常がみられていることから区分1Bとした。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ヒトについての「眼、鼻に対する刺激性、中枢神経系に対する影響」(EHC 26 (1983)、CERIハザードデータ集 96-46 (1998))等の記述から、中枢神経系が標的臓器と考えられ、鼻部への刺激影響が示されている。

以上より、分類は区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

ヒトについて、CERI・NITE有害性評価書 No.52 (2004)で「ヒトでの事例や疫学調査では、暴露量が明確でないことや他の物質との複合暴露の可能性もあるため、明確に結論づけることは困難である。」としながらも、「スチレンは、眼、皮膚、鼻、咽喉に刺激性を示し、呼吸器への影響として閉塞性肺障害、慢性気管支炎等を引き起こす。また、めまい、頭痛、疲労感、錯乱、不眠などの中枢神経系への作用、反応時間、言語性記憶の低下などの精神神経機能への影響、視覚・聴覚への影響、リンパ球数増加、血小板数の減少などの血液系への

《吸引力呼吸器有害性》

炭化水素であり、動粘性率は0.772mm²/s (25°C) (CERI計算値)である。

よって、区分1とした。

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ ジメチルエーテル

《水生環境有害性》(急性)

魚類(グッピー)の96時間LC50 > 4000 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 > 4000 mg/L(いずれもIUCLID, 2000)から、区分外とした。

《水性環境有害性》(慢性)

難水溶性でなく(水溶解度: 4.6E+004 mg/L (PHYSPROP Database, 2008))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

・ プロピルアルコール

《水生環境有害性(急性)》

甲殻類(ミジンコ)の48時間LC50=3025mg/L(EHC102, 1990)から、区分外とした。

《水生環境有害性(慢性)》

難水溶性でなく(水溶解度=1.00 × 106mg/L(PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

・ トリエチルアミン

《水生環境有害性(急性)》

藻類(セテナストラム)の72時間ErC50=8mg/L(環境省生態影響試験、1999)から、区分2とした。

《水生環境有害性(慢性)》

急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの(BCF<4.9)、急速分解性がない(BODによる分解度: 28%)ことから、区分2とした。

・ カーボンブラック

《水生環境有害性(急性)》

甲殻類(オオミジンコ)の24時間EC50>5600mg/L(IUCLID, 2000)から、本物質の水溶解度(不溶(HSDB, 2004))において当該毒性を示さないことが示唆されるため、区分外とした。

《水生環境有害性(慢性)》

難水溶性で水溶解度までの濃度で急性毒性が報告されておらず、水中での挙動および生物蓄積性も不明であるため、分類できない。

・ スチレン

《水生環境有害性(急性)》

魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=4.02mg/L(CERI・NITE有害性評価書、2004)他から、区分2とした。

整理番号	ラジプロッカースプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

《水生環境有害性(慢性)》

急速分解性があり(BODによる分解度:100%(既存化学物質安全性点検データ)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=2.95(PHYSPROP Database、2005))ことから、区分外とした。

オゾン層への有害性 : データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制:

国連分類

クラス2.1 引火性ガス

国連番号

1950 エアゾール類

容器等級 : 該当しない

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制:

容器イエローラベル

126 気体-圧縮又は液化 (冷気気体を含む)

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・「火気注意」
- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

1 5. 適用法令

火薬類取締法:

対象外

高圧ガス保安法:

エアゾールの為非該当

消防法: ()内は、指定数量

非危険物(指定可燃物 可燃性液体類)

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法):

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法:

表示対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則):

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物):

引火性の物

可燃性のガス

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法):

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

船舶安全法

危険物 (高圧ガス)

航空法

高圧ガス

整理番号	ラスプロッカースプレー(水性) 480ML×24/CS	作成日	2017年4月7日
4623-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2018年7月17日

Ver. 11.08

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。